



介護関連職種のための薬の知識と感給予防

～医薬品を安全に使用していただくために～

錦木倫 すすらん薬局グループ
薬部 監

適用面から分類	
医薬品	医療用医薬品
	一般用医薬品(大衆薬)
治療薬	対症療法薬(鎮痛剤、血圧降下剤、鎮咳薬)
	化学療法剤(抗生物質、抗がん剤、抗結核薬)
予防薬	予防ワクチン
診断薬	(エックス線造影剤、臨床検査薬)
環境衛生用薬	(殺虫剤、殺菌剤、防虫薬)

剤型から分類	
カプセル剤	医薬品を粉末、顆粒、液状などにして、カプセルに入れたもの。
錠剤	薬を一定の形に圧縮して作ったもの。
カプレット	カプセルの形をした細長い錠剤。
顆粒剤	薬を粒状におおきさをそろえたもの。
細粒剤	細かい粒状にしたもので、粉薬と呼ばれる。
トローチ	飲み込まずに口の中でゆっくりと溶かすもの。

チュアブル	水なしで噛み砕いたり、口の中で溶かして服用できる錠剤。
エキス剤	生薬などから浸出された薬効成分を濃縮して製造したもの。
シロップ剤	白糖の溶液やその他の糖類、または、甘味剤を加えてのどの通りをよくし飲みやすくした内服薬。
軟膏剤	皮膚に簡単に塗れるようになっている半固形の外用剤。
リメント剤	普通、泥状や液状でへらなどで伸ばして患部につける外用剤。
ローション剤	水性の液の中に薬を均等に分散させたもの。

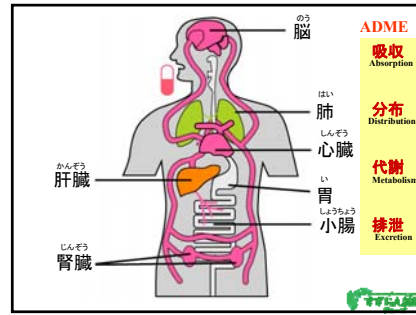
使い方で分類	
経口薬	口から飲む薬のことで、胃や腸で溶けて吸収され、血液中に入って、体内をめぐるもの。飲んでから15～30分で吸収される。
外用剤	皮膚につけることで皮膚から吸収させる貼り薬や、患部に直接塗る軟膏や、目にさす点眼薬や点鼻薬、うがい薬などの液剤などがある。
注射・点滴薬	皮下や静脈などに薬を直接注入するので、吸収が完全で早く、効果も早く現れる。
坐薬	主に肛門に挿入して腸管粘膜から吸収されて効果を上げる薬。うまく薬を放めない小さな子供や、飲み込む力の弱くなった人に経口薬の代わりに用いられる。
吸入薬	吸入器で薬を口中やのどの方に散布する。気管支喘息などの治療に用いられると、即効性が高い。

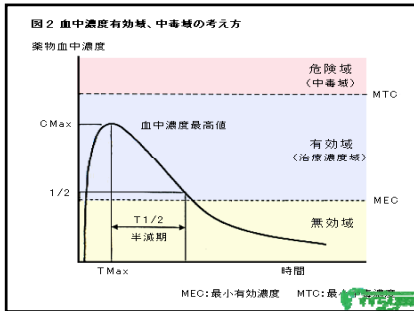
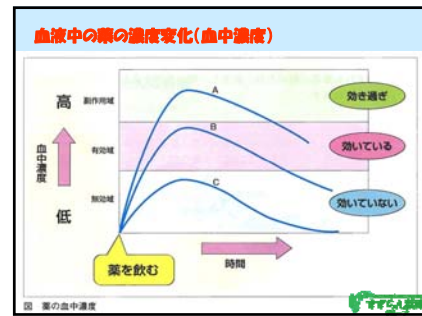
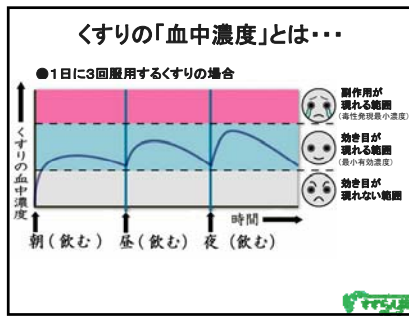
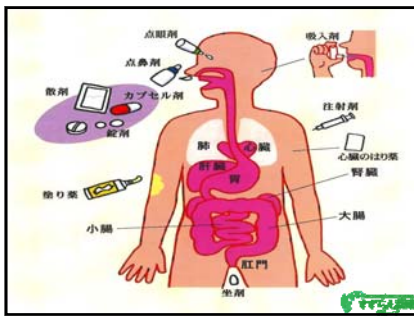


カプセルの中のツツツに、このような工夫を加えることがあります

例えば・・・
 すぐ効くツツ
 ゆっくり効くツツ
 胃で溶けるツツ
 腸で溶けるツツ
 痛みを抑えるツツ
 熱を下げるツツ

薬は識別コードで見分けます





くすりは、指示された時に正しく服用しましょう

- 食前** 食事をする前、30分から1時間以内に服用する
- 食後** 食事が終わった後、30分以内に服用する
- 食間** 食事と食事の間、前の食事から2時間ぐらい後<食事の最中に服用することではない>
- 寝る前** 寝る30分から1時間前に服用する(就寝前)
- 頓服** 症状を一旦抑えるため、症状が出た時に服用する<例えば> 熱が出た時に服用する 痛みが出た時に服用する

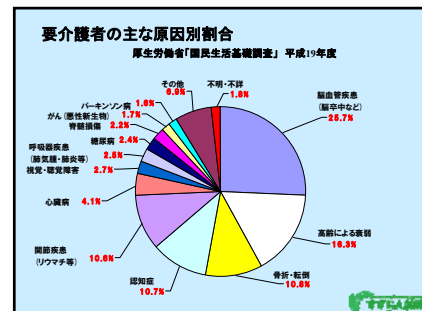
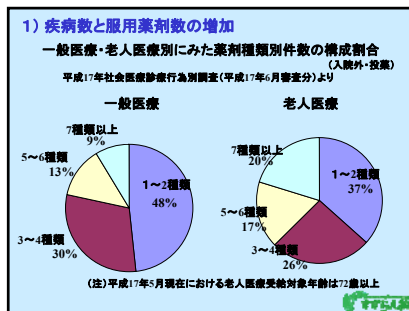
高齢者に体調の変化が起こったとき

新たな病気
現在の病気が進行
老化によるもの
薬の副作用

高齢者の特徴と医薬品使用上の問題点

高齢者の薬物療法の特徴

- 1) 疾病数と服用薬剤数の増加
- 2) 生理・生体機能の低下による副作用の発現
- 3) 医薬品の長期使用
- 4) 薬に対する理解力の低下
- 5) 嚥下能力の低下による嚥下障害
- 6) 筋力低下等による服用能力の低下



2) 生理・生体機能の低下と副作用

高齢者では、通常の用量であっても、生理機能・生体機能の低下から、薬が強く効きすぎたり、副作用が強く現れる。

さらに、副作用等の症状については病氣や老化によるものと思いきや、むしろ老化によるものかもしれません。注意が必要です。

・加齢による生理機能の低下と薬物動態への影響

	老化による生理的变化	薬物動態への影響
吸収	胃腸管血流量↓ 胃酸PH↑ 消化管運動↓ 消化管面積↓	薬物吸収の低下？ (比較的影響は少ない)
分布	体内脂肪↑ 体内水分↓ 血清アルブミン↓	脂溶性薬物の体内蓄積 水溶性薬物の濃度上昇 タンパク結合率低下による遊離薬物増加
代謝	肝薬物代謝酵素(P450)活性↓ 肝血流量↓	代謝低下による血中濃度上昇
排泄	腎糸球体濾過率(GFR)↓ 腎血流量↓ 尿細管分布↓	腎クリアランス低下による血中濃度上昇

・人体の主要成分

年齢	25歳	75歳
脂質	15%	30%
炭水化物、タンパク質、灰分	23%	17%
細胞内水分	42%	33%
細胞外水分	20%	20%

3) 医薬品の長期使用

高齢者の疾患は、臓器の老化による障害を基礎としていることが多い。

同じ薬の長期間使用が多くなる。

これらの一部の薬で急性疾患の症状を隠蔽し、新たな疾患の発見を遅らせてしまう。

4) 薬に対する理解力の低下

・高齢になると、薬を見間違えたり、飲み方を聞き間違えてしまうことがある。

・視覚や聴覚の低下、認知症などにより正しい使い方ができない。
何に効く薬であるかなどの説明を充分理解できない。



理解できないため服用拒否や、薬の使用によって引き起こされる症状を適切に訴えることができない。

5) 嚥下障害（嚥下能力の低下）

・嚥下障害は、高齢者に多く見られる

原因疾患の約40%は脳卒中

状態に合わせた薬の剤形を選ぶことが必要

6) 筋力低下等による服薬能力の低下

筋力低下等により包装（シート）から取り出しにくくなった、開封できにくくなる。

服薬支援グッズ

●錠剤や錠剤を多く含む錠剤には

錠剤の取り出し
・オプラーブシート、薬をとり出しやすい。
・オプラーブシートに入らず錠剤を直接取り出すことも可能。
・錠剤の取り出しに便利な錠剤の取り出しシート。

●錠剤を多く含む錠剤には

錠剤の取り出し
・オプラーブシートに入らず錠剤を直接取り出すことも可能。
・錠剤の取り出しに便利な錠剤の取り出しシート。

●錠剤を多く含む錠剤には

錠剤の取り出し
・オプラーブシートに入らず錠剤を直接取り出すことも可能。
・錠剤の取り出しに便利な錠剤の取り出しシート。

オプラーブのじょうずな使い方

●オプラーブの上手な使い方●

オプラーブ
お薬をオプラーブに詰めます。オプラーブは袋状になっていて、お薬を入れることができます。

オプラーブ
オプラーブを水の中に入れて、お薬を溶かしてトロミをつけます。

オプラーブ
ゼリー状になったオプラーブをスプーンですくいます。

お薬の効き目に、ゼリー状のオプラーブは、タブレットと同等の効果があります。

下剤の分類

分類	商品名	作用	作用発現時間	副作用	相互作用
腸管刺激性下剤	酸化マグネシウム 酸化マグネシウム	腸管内の水分を増やし、排便を促進する	1～2時間	酸化マグネシウム血症（高カルシウム血症、低カルシウム血症、低マグネシウム血症）	オキサリタキセル、ニモスチンと併用時の効果増進させることがある
腸管刺激性下剤	バルコージー オムロン オムロン	腸に水分を吸収させて硬い便を軟らかくする	12～24時間	悪心、嘔吐、腹部膨満感など	
小腸刺激性下剤	ピルゼン	小腸を刺激して排便を促進する	2時間以内	悪心、嘔吐、腹痛など	
大腸刺激性下剤	ピルゼン ピルゼン ピルゼン	大腸の蠕動運動を促進し、かつ便の水分を増やす	8～12時間	悪心、嘔吐、腹痛、膨満感など	
大腸刺激性下剤	ピルゼン ピルゼン	大腸の蠕動を抑制する	7～12時間	悪心、嘔吐、腹痛、膨満感など	
大腸刺激性下剤	ピルゼン ピルゼン	大腸の蠕動を抑制する	5～60分	腹痛、嘔吐、下腹部膨満感など	
その他	ピルゼン ピルゼン	腸管がたるみやすくなることで腸管を刺激する	5～30分	腹痛、嘔吐、下腹部膨満感など	
	ピルゼン	大腸の蠕動を抑制する		腸アムドステロン血症（高カルシウム血症、低カルシウム血症、低マグネシウム血症）	ピルゼン、ダイオクソンを服用中の患者は、ピルゼンによる高カルシウム血症の悪化や血圧低下のリスクがある

腸管刺激性下剤	酸化マグネシウム 酸化マグネシウム	ピルゼン ピルゼン
腸管刺激性下剤	バルコージー オムロン オムロン	ピルゼン ピルゼン
腸管刺激性下剤	ピルゼン ピルゼン	ピルゼン ピルゼン
腸管刺激性下剤	ピルゼン ピルゼン	ピルゼン ピルゼン

市販胃薬と食塩

・主なOTC胃腸薬に含まれる炭酸水素ナトリウム量

商品名	製薬企業	炭酸水素ナトリウム(1日量)	食塩換算量(1日量)
炭酸水素ナトリウム	東海製薬	5g	3.5g
シロンS	ロート製薬	2286g	1.6g
胃健錠	龍角散	1.9g	1.4g
太田胃散	太田胃散	1.875g	1.3g
キャベンジンAコーワ	興和創薬	1.5g	1.0g

DRUGS IN JAPAN 日本医薬品集フォーラム監 日本医薬品集 医療薬09 2008年4月版より
日本人平均：男性 10g、女性 10g、食塩 1g、以下が目標値 高血圧症 1.0g以下

薬の飲み合わせ (相互作用)

- 薬 と 薬
- 薬 と 食物
- 薬 と 嗜好品



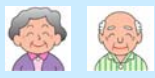
相互作用のメカニズム

薬効・副作用の増強	薬効の減弱	対応
作用の重複	作用の拮抗	用量の調節
吸収の促進	吸収の阻害	服用時間をずらす 投与経路の変更
代謝の阻害	代謝の促進	用量の調節
排泄の阻害	排泄の促進	用量の調節
・代謝産物に作用・副作用がある場合		
代謝の促進	代謝の阻害	薬剤の変更 用量の調節

薬物と代謝産物の相互作用の検討
代謝産物同士の相互作用の検討

薬と食物・嗜好品

- 納豆とワーファリン
- 牛乳と薬
- グレープフルーツジュースと薬
- ハーブ類と薬
- 飲酒と薬
- たばこと薬



介護関連職種のための感染予防

感染予防の基本的な考え方

「標準予防策」(スタンダードプリコーション) という考えかたが基本

CDC
Centers for Disease Control and Prevention
米国疾病予防管理センター(アメリカ合衆国アトランタ)で提唱された医療における感染予防の原則

標準予防策とは

全ての患者の汗を除く①血液、②体液、③粘膜、④損傷した皮膚を感染の可能性がある対象として扱うことで、患者及び医療従事者の院内感染のリスクを軽減するための感染予防対策である

「感染症の有無に関わらずすべての患者に適用する疾患非特異的な予防策である」

Centers for Disease Control and Prevention

感染経路

接触感染

感染者から排泄された病原菌などが、直接あるいは看護・介護者の手を介して、食器、ドアノブ、シーツ、タオルなどに付着して他の人の身体に入って感染すること。

飛沫感染

咳、くしゃみなどによる飛沫(5µm以上)の中に含まれる病原菌などによって感染すること。1m以内にある結膜、鼻粘膜、口腔などに付着する。インフルエンザ、風疹、おたふくかぜなど

空気感染

微生物を含む飛沫が気化したのち5µm以下の小粒子が粉塵粒子として浮遊し、空気の流れによって広く拡散する。結核、麻疹(はしか)、水痘(みずぼうそう) 新型インフルエンザ?

感染予防の基本 その①

感染予防は手洗いと、うがいと基本

・人体の消毒

病原菌の種類と感染経路の確定

・器具・機械の消毒

加熱による消毒

家庭においては煮沸消毒や洗浄と乾燥が有効

加熱による消毒の速さやものや消毒の必要度に依りて、消毒薬を使用

感染予防の基本 その② 消毒の方法

熱による消毒方法 (80℃10分間が基本)

有効・安全
経済的
環境にやさしい

熱水による消毒

80℃以上の熱湯はほとんどの病原菌に有効。一部の病原菌には効果なし。温度が高ければ高いほど消毒時間は短くて良い。

煮沸による消毒

消毒したいものを沸騰した水の中に沈め、15分以上煮沸する方法。栄養型細菌、結核菌、真菌ウイルスを死滅させるが一部の病原菌には効果なし。

感染予防の基本 その③ 消毒の方法

消毒剤による消毒方法

(1) 消毒剤の使用法

- ①適切な消毒剤と消毒法の選択。
- ②消毒剤は20℃以上得水で薄めて使用。
- ③消毒の前に、消毒したいものをよく洗浄する。
- ④洗剤をよく洗い流してから使用。
- ⑤消毒剤どうしは混合不可。(エタノールは混ぜることあり)
- ⑥使用濃度の厳守。
- ⑦消毒液に十分な接触。
- ⑧消毒液への十分な接触時間の確保。

感染予防の基本 その④ 消毒の方法

(2) 使用・保管上の注意

- ①適正な部位に、適正な濃度で使用。
- ②噴霧しない。
- ③過度な使用はしない。
- ④継ぎ足し、移し変えはしない。
- ⑤用時調製する。(作り置きはしない)
- ⑥飲まない、目に入れない。
- ⑦保管場所、保管方法にも注意。
- ⑧過敏症に注意。
- ⑨使用期限を守る。
- ⑩火気に注意。

感染経路別予防策

a 接触 b 飛沫 c 空気 d 一般媒介物 e 小動物

接触感染予防策

標準予防策 + 飛沫感染予防策

空気感染予防策

在宅での予防策の例(1)

(1) 疥癬の感染予防

疥癬:ヒゼンダニがヒトの皮膚に寄生して発生するかゆみの強い感染性の皮膚疾患。

感染経路:皮膚と皮膚との接触感染による
感染対策:接触感染対策を行なう。

- ①個室隔離
- ②肌着・シーツ・寝具などを毎日交換
- ③接触する際は、ガウン、手袋着用

具体的対策

衣類、シーツなど:50℃以上のお湯で10分以上消毒後、洗浄・乾燥
寝具:天日干しが有効。または布用乾燥機を使用して加熱・乾燥
清掃:家室内の浴槽や床は、十分に洗浄・清掃すれば消毒する必要はない。ダニを駆散さないフィルター機能付掃除機の利用推奨。

疥癬治療薬

平成14年の10月、腸管糞線虫症治療薬としてイベルメクチンが高有製薬(株)から商品名ストロメクトール錠3mgとして発売された。

平成18年8月、マルホ(株)から『駆虫薬ストロメクトール錠3mg』が発売され、保険診療による疥癬の治療薬として使用することが可能となった。

イベルメクチンを1回投与し、1週間後(虫卵には無効なので卵が孵化する1週間後)同様に1回投与(計2回)により疥癬虫は死滅する。

用法用量は体重1kgあたり200µgを1回、空腹時に水とともに服用する。服用回数は1日1回、2週間間隔で2回、となっているが、疥癬治療の専門家1週間間隔で2回が適当、と言っている。

在宅での予防策の例(2)

(2) 食中毒の予防

感染経路:汚染された飲食物を摂取することにより経口感染する。

感染対策:

- ①食品を扱う人の手洗いの励行。
- ②冷蔵庫を過信せず、食品の保管管理を適切に行なう。
- ③調理前に食品を水洗いし、表面に付着している細菌を洗い流す。
- ④台所の流し、まな板、食器などの洗浄、乾燥により清潔な環境を維持する。

具体的対策

手洗い:流水と石けんによる手洗い⇒乾燥
調理器具:洗浄後、熱水消毒または次亜塩素酸ナトリウムによる消毒⇒乾燥が大切
食品:清潔・迅速・温度管理の3点が重要

手洗いの意義

「感染防止に対して一番大きな役割を果たすのが手洗いである。適切に行なうことで感染を減少させることができる。」

- ・血液、体液、分泌物、排泄物、汚染物、傷のある皮膚、粘膜に触った際は手洗いを行なう
- ・医療従事者の手、医療器具が媒介している

手は汚い



手洗いの種類と目的

日常的手洗い

汚れおよび一過性微生物の除去



衛生的な手洗い

一過性微生物の除去あるいは常在菌の除去、殺菌



手術時手洗い

一過性微生物の除去と殺菌および常在菌を著しく減少させ、抑制効果を持続させる

手指衛生のガイドライン

(ODC:米疾病予防管理センター:2002/10)

1. 手が目に見えて汚れている場合、血液、体液などで汚染されている場合には、非抗菌性石鹸(普通の固形石鹸など)または抗菌性石鹸と流水で洗う。
2. 手が目に見えて汚れていない場合、以下①~③の場面において、速乾性擦式手指消毒薬を日常的に用いて手指消毒する。代わりに抗菌性石鹸と流水で手を洗ってもよい。

手指衛生のガイドライン

(ODC:米疾病予防管理センター:2002/10)

速乾性擦式手指消毒薬を使った時

抗菌性石鹸と流水での手指消毒

- ①患者に直接接触する前
- ②中心静脈カテーテル挿入時に滅菌手袋を着用する前
- ③導尿カテーテル、末梢静脈カテーテルなど手術的手技を要しない浸襲的器具を挿入する前
- ④患者の健常皮膚に接触した後
- ⑤体液、排泄物、粘膜、非健常皮膚、創傷被覆に触れた後で目に見える汚染のない場合
- ⑥同一患者の汚染部位から清潔部位に移る場合
- ⑦患者の直接周辺に接触した後
- ⑧手袋をはずした後

石けんまたは手洗い用消毒薬(スクラブ剤)での手洗い方法



速乾性手指消毒薬の使い方(目に見える汚れのない場合のみ)



Q 擦式手指アルコール消毒薬による手洗いの順番は?



個人防護用具

(PPE: Personal Protective Equipment)

病原体との接触や伝播を防止する手段
血液・体液など患者のすべての**湿性生物物質**から医療従事者を守る
性能を保持できるような着け方、汚染したものを他へ広げずに外せるトレーニングが必要

使用目的

標準予防策・感染経路予防策の具体的な方法として使用する

手袋

タイミング

- 血液、体液、分泌物、排泄物、汚染物やそれらで汚染された物品、器具に触れる時
- 粘膜、傷のある皮膚に触れる直前
- 医療従事者の手に傷や皮膚病変がある時

装着場面

- 採血、点滴、抜針時
- 粘膜、傷のある皮膚に触れる直前
- 創傷、ストーマパウチ交換時
- 医療従事者の手に傷や皮膚病変がある時

手袋の外し方



手袋をした一方の手の指で反対側の手袋の裾をつまむ

手袋の内側を外に向けて、汚染面が内側にくるように剥ぎ取る

素手になった手をはめている手袋内側に差し入れる。このとき、汚染面に触れないように注意する

ガウン・エプロン

目的 血液、体液等の汚染から皮膚と衣服を保護する

アイソレーションガウンー予防衣型 袖から体全体を覆う
ディスポーザブルエプロンーエプロン型 袖以外を覆う



- 血液、体液等の汚染から皮膚と衣服を保護する目的で使用するので、**未滅菌**でよい
- 血液、体液等の透過を防ぐために、**撥水性**または**防水性**のものがよい

ガウン・エプロン

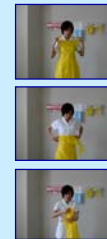
タイミング

血液・体液などが飛散し、飛沫が発生する恐れがあるような処置やケアを行う時

装着場面

- 褥瘡・創傷部の洗浄時
- 使用した器具洗浄・消毒を行うとき

ガウン・エプロンの外し方



必ず手袋をはずす
首の紐をとくか、引きちぎる

汚染された表面を覆うようにして、腰部の紐も引きちぎってはずす

感染性廃棄物のゴミ箱に廃棄する

マスク

紙マスク： 着しい濾過性はなく、飛沫は防げない。
サージカルマスク： 細菌濾過効率95%以上
N95マスク： NIOSH(米国労働安全衛生研究所)が認定するN95基準に適合。結核菌への職務被曝時に使用することが適当とされている。顔面への密着性がある。



紙マスク

サージカルマスク

N95マスク

マスク

タイミング

サージカルマスク
血液、体液等が飛散し、飛沫が発生する恐れがあるような処置やケアを行う時。
医療従事者の呼吸からの飛沫の飛散を予防したい時。

N-95マスク
空気感染患者のケアを行なう時。

装着場面

サージカルマスク
インフルエンザ・流行性耳下腺炎・風疹などの患者のケアを行うとき。
咳嗽の激しい患者のケア時。

N-95マスク
肺結核患者のケア時。
麻疹、水痘の疑体がない人が患者と接するとき。

咳エチケット

症状のある患者の感染性呼吸器分泌物の発生源封じ込め、遭遇した最初の場所での開始

- 症状のある人がくしゃみや咳をするときは口・鼻を覆うよう指導する。ティッシュを使い、ノンタッチのゴミ箱に捨てる
- 呼吸性分泌物で手が汚れた後に手指衛生を遵守する。
- 耐えられるならサージカルマスクを着用する。あるいは、できるだけ3フィート(1m)以上の間隔を空ける

うがいの方法

うがいは一口み（約50mL）、3回行いましょう。水やうがい薬でも同じ方法で行って下さい。

① 口の両側の頬の方などを残さず、口に液体を少し溜めうがいする。
② 舌を上げてのどの奥までうがい液を充分に15秒程度うがいする。
③ ②と同様に、もう一度15秒程度うがいする。

資料提供：明治製菓株式会社

うがいでできない方は、口腔内清拭[※]を行いましょう。口腔ケアは感染予防のためにも効果があります。
*口腔内清拭の方法：清潔なガーゼや綿棒、スポンジファンなどに水を含ませ、余剰な水分をしぼり、口の中の粘膜や歯肉を試きます。しっかりと拭いた後、そのガーゼを換えます。

食器の消毒

食器や投票容器、経腸栄養剤等の投与容器などは、十分に洗浄し、熱湯による消毒が消毒剤による消毒、または除菌効果のある漂白剤による除菌後、乾燥させましょう。

消毒のポイント

- 通常は洗剤で洗い、しっかりと乾燥させましょう。
- 消毒が必要な場合は優先的に熱湯による消毒を行いましょう。

消毒剤や漂白剤を使用する場合

- 有毒な塩素ガスを発生させる製品や発生した蒸気により粘膜刺激を起こす製品もあるため、使用時には換気を行うなど、吸入しないよう注意しましょう。
- 酸性洗剤と混ぜると有毒な塩素ガスが発生する製品もありますので、混ぜてはいけません。
- 消毒液に食器等が完全に浸かるようにしましょう。
- 金属には使用しないこと。また、色落ちに注意しましょう。

表：食器消毒に使える消毒剤・漂白剤の例

消毒剤（医薬品） ミルトン、ビュラックス、テキサント等（次亜塩素酸ナトリウムとして0.01~0.02%） 漂白剤（雑貨品） ハイター、キッチンハイター等（次亜塩素酸ナトリウムとして0.01~0.02%）		80倍希釈（成分として0.0125%） 1時間以上 例）液タイプ：水2Lにミルトン25mL 錠剤タイプ：水2Lに1錠
キッチンハイター等（雑貨品）		ふきん、まな板などの除菌は、製品説明書の希釈濃度、時間を参考して下さい。

濡れた食器を入れると消毒液はだんだん薄くなってしまいます。消毒液はその原液（1L）を白交換しましょう。

器具の消毒

消毒のポイント

- 熱による消毒が可能なものは、熱湯による消毒・煮沸による消毒など熱による消毒を優先しましょう。
- 消毒剤の種類によっては、金属製品に使えない場合もあるので注意しましょう。
- 消毒剤の濃度や温度に注意しましょう。
- 血液や体液、排泄物等の有機物が付着していると消毒効果が下がることがあるので、汚れ等はしっかりと落としてから消毒しましょう。

環境（置き込み）による消毒時の注意

消毒剤の希釈は正確に行いましょう。器具の汚れは流水で十分に洗い流してから浸しましょう。

消毒時の注意（左図）
① 消毒液に漬からない部分がある。
② 汚さじがる。
③ 内部に空気が入っている。

これは充分な消毒効果が得られないので、器具全体が消毒液に漬かるようにしましょう。

表：器具の消毒に使える消毒剤の例

	消毒用エタノール	ビュラックス テキサント等	オスピン液等
備考	★製包装あり		☆希釈必要あり
成分	エタノール76.9~81.4%	次亜塩素酸ナトリウム6%	ベンザルコニウム塩化物10%
注意	原液 清拭 火気厳禁 ×合成ゴム、合成樹脂	120~300倍希釈(0.05~0.02%) 清拭が推奨 *金属 色落ち注意	100倍希釈(0.1%) 10分浸漬 *合成ゴム、合成樹脂、皮革製品

★製包装（ふき取りに使用）：
消毒薬を浸した1回使いきり包装のことで、ガーゼや綿球状の製品もあります。清潔で消毒剤の濃度の手戻りもばい菌防止です。

表：在宅療養で用いる主な器具の消毒

消毒剤の希釈方法、使用方法については医師・看護婦・薬剤師の指示に従って下さい。

経腸栄養剤用容器	<ul style="list-style-type: none"> 使用後の容器は洗浄→消毒→乾燥の順に、 ・熱湯消毒（80℃、10分）またはミルトンなど次亜塩素酸ナトリウムによる消毒 <p>【使える主な消毒剤・漂白剤】 消毒剤（医薬品）：ミルトン、ビュラックス、テキサントなど 漂白剤（雑貨品）：キッチンハイターなど</p> <p>成分（次亜塩素酸ナトリウム）濃度として、0.01~0.0125%とし、1時間浸漬する</p>
吸引カテーテル	<ul style="list-style-type: none"> ・カテーテルは1回毎に使い捨てとする（原則として消毒しての再使用はしない。医師の指示に従うこと）。 ・消毒をする場合、煮沸ができるときは煮沸消毒する。 <p>【使える主な消毒剤】 ビュラックス、テキサントなど ザルコニウム液等 (成分：0.1%ベンザルコニウム塩化物、8%エタノール)</p>

表：在宅療養で用いる主な器具の消毒

消毒剤の希釈方法、使用方法については医師・看護婦・薬剤師の指示に従って下さい。

経腸栄養剤用容器	<ul style="list-style-type: none"> 使用後の容器は洗浄→消毒→乾燥の順に、 ・熱湯消毒（80℃、10分）またはミルトンなど次亜塩素酸ナトリウムによる消毒 <p>【使える主な消毒剤・漂白剤】 消毒剤（医薬品）：ミルトン、ビュラックス、テキサントなど 漂白剤（雑貨品）：キッチンハイターなど</p> <p>成分（次亜塩素酸ナトリウム）濃度として、0.01~0.0125%とし、1時間浸漬する</p>
吸引カテーテル	<ul style="list-style-type: none"> ・カテーテルは1回毎に使い捨てとする（原則として消毒しての再使用はしない。医師の指示に従うこと）。 ・消毒をする場合、煮沸ができるときは煮沸消毒する。 <p>【使える主な消毒剤】 ビュラックス、テキサントなど ザルコニウム液等 (成分：0.1%ベンザルコニウム塩化物、8%エタノール)</p>

室内の消毒

消毒・消毒のポイント

- 患者さんの生活環境は、通常、消毒の必要はありません。
- 日常的に汚れをとり、ほこりをたでないように清掃しましょう。
- トイレやお風呂は洗浄し、しっかりと乾燥させましょう。
- 床等におちた血液等の処理：ふき取り後、0.1%次亜塩素酸ナトリウム液で消毒するか、ふき取り等ができない時は0.5~1%次亜塩素酸ナトリウム液で消毒しましょう（エタノールは不向きです）。[※]

（※）参考文献¹より

表：室内の消毒に使える消毒剤・漂白剤の例

消毒剤（医薬品）：ビュラックス、テキサント等（次亜塩素酸ナトリウム） 漂白剤（雑貨品）：ハイター等（次亜塩素酸ナトリウム）	<ul style="list-style-type: none"> ・金属には使用しないこと。 ・酸性洗剤には混ぜてはいけません。（有毒な塩素ガスが発生します） ・色落ちに注意。
--	---

酸性洗剤って？
トイレの洗剤：サンポール、ルックトイレの洗剤、トイレパーズ など
詳しくは商品の表示をご確認ください。

シーツ等の布類の消毒

洗濯・消毒のポイント

- シーツ等は乾燥している状態では、ほとんど感染のおそれはありません。
- 通常の状態で洗濯、乾燥させます。
- 乾燥には日光が最適です。
- アイロン掛けによる加熱も病原菌などの減少に効果があります。
- 多量に血液、体液、排泄物等の有機物が付着した場合は予め洗浄を行い、その後、下敷のものなどで消毒しましょう。

表：シーツ等の布類に使える消毒剤・漂白剤の例

消毒剤（医薬品）：ビュラックス、テキサント等 漂白剤（雑貨品）：ハイター等（次亜塩素酸ナトリウム）	濃度として0.01~0.02% 成分（次亜塩素酸ナトリウム）
<ul style="list-style-type: none"> ・金属には使用しないこと。 ・酸性洗剤には混ぜてはいけません。（有毒な塩素ガスが発生します） ・色落ちに注意。 	

